

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニシダ 西田 ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1914年に始まったアメリカのコミュニケーション学会は、現在NCAとなり、40以上の分科会を有する最大の学会に成長しました。異文化間コミュニケーション分科会は1972年に発足し、40数年の時間の中で、17の理論が構築され、概念そして方法論が明示されました。一方コミュニケーションの行われるコンテキストについても研究が進みました。</p> <p>本講座の目的は、異文化間コミュニケーションを理解するのを主とし、インターパーソナルとノンバーバルの領域を副とします。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を修得するとともに、倫理的及び批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p> <p>[日本大学教育憲章ルーブリック：A-1, A-3, A-4, A-5, A-8]</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>グローバル社会において文化背景の異なる人たちと共生する際に必要となる知識とコミュニケーション能力をつけることです。具体的には、コミュニケーションの動機、知識、技能に関する知識、そして非言語のメッセージについて知識を習得することです。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>学修者は、まず、コミュニケーションの動機、知識、技能の3つの領域の知識・解釈を習得します。そして、認知能力とコミュニケーション能力について、エクササイズ及び能力測定を行い、不足している能力については、養成してください。</p> <p>非言語のメッセージについては、アメリカのおおよそ40年の研究・調査結果がまとめられている教科書から技能を形成してください。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っている知識や認知能力及びコミュニケーション能力を測定する尺度を予め行き、学修者自身の数値を算出してください。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の共同学習を行ってください。 図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成してください。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>教材の熟読、OERによる自律的学習、参考文献の検索と批評的熟読、そしてレポートの作成。</p> <p>【学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに次を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	<p>前期及び後期の最終稿提出期限の1か月前までに初校を送ってください。添削を含め指導します。</p> <p>最終稿の提出には十分時間的な余裕を持って臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	要約の構成、文章表現の妥当性、 考察の独創性、引用の適切性 共通：論旨の明確さ
	観察記録	20%	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 要約課題については、課題の章をよく読み、バランスよくまとめてください。 考察課題については、二つの点が重要になります。1つは、要約した章で用いられている専門用語を用いて論旨を展開することです。もう1つは、テーマに関する知識と体験をもとに考察することです。さらに、教科書以外の文献からの引用をすることができれば、さらによりレポートになります。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西田司・小川直人・西田順子 教材名： 『グローバル社会のヒューマンコミュニケーション』（八潮社、2017年） ISBN:978-4-86014-830-0 2,000円＋税 本書は、1つの理論をベースに、グローバル社会における、異なる地域で生まれ育った人とのコミュニケーションは、その人の考え方や行動の仕方を理解しなければ、相互理解は深まっていきません。3つのことを本書は明らかにしています。1. コミュニケーションを理解する方法、2. 相手の文化的な特徴を知ること、3. 文化背景の異なる人との効果的なコミュニケーション。
参考図書	Gudykunst, W. B. (2004) (4 th ed.). <i>Bridging Differences: Effective Intergroup Communication</i> . Sage. ISBN: 0-7619-2936-3
履修上のポイント	教科書及び参考書には、個人が文化的特徴及びコミュニケーションの特徴を測定することのできるアンケート（測定尺度）が掲載されています。まず、これらのアンケートに記入し、自分の数値を算出し、自分の傾向を把握することから始め、各章のテーマを理解していきましょう。
レポート課題 1	教材を読み、予約すること、次に、その理解をもとに1つのテーマ（章全体のテーマあるいはその中のテーマ）について考察すること。第1部（第1章、第2章、第3章、第4章）を2000字で要約し、1つのテーマについて1000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	同様に、第3部（第7章、第8章、第9章、第10章）を2000字で要約し、1つのテーマについて1000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド, V. P. & マクロスキー, J. C. 教材名： 『非言語行動の心理学』（北大路書房、2001年） ISBN: 978-4-76-282220-9 3,200円＋税 本書は、メッセージの一部である、非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーション全体を理解するには、最適の専門書です。概念、ジェスチャー、感情表現、対人距離、接触、接近性といったテーマを含めて、基本的領域をカバーし、後半の章では、前半の基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場や状況を設定しています。
参考図書	大坊邦夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社、1998年） ISBN: 978-4-78-190888-5 1,500円＋税
履修上のポイント	本書は、アメリカのおおよそ50年のアメリカの非言語コミュニケーション研究の集大成というべき図書です。1970年代以降の研究結果が載っています。 各章には、用語集がつけられているので、基礎概念を理解するときや、要約をする際に役立ててください。
レポート課題 1	第2章～第5章、第7章～第9章の中から3つの章を選択し、3,000字で要約し、そして、その中から1つの章（あるいは1つのテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第10章～第13章の中から2つの章を選択し、2,000字で要約し、そして、その中から1つの章（あるいは1つのテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。